

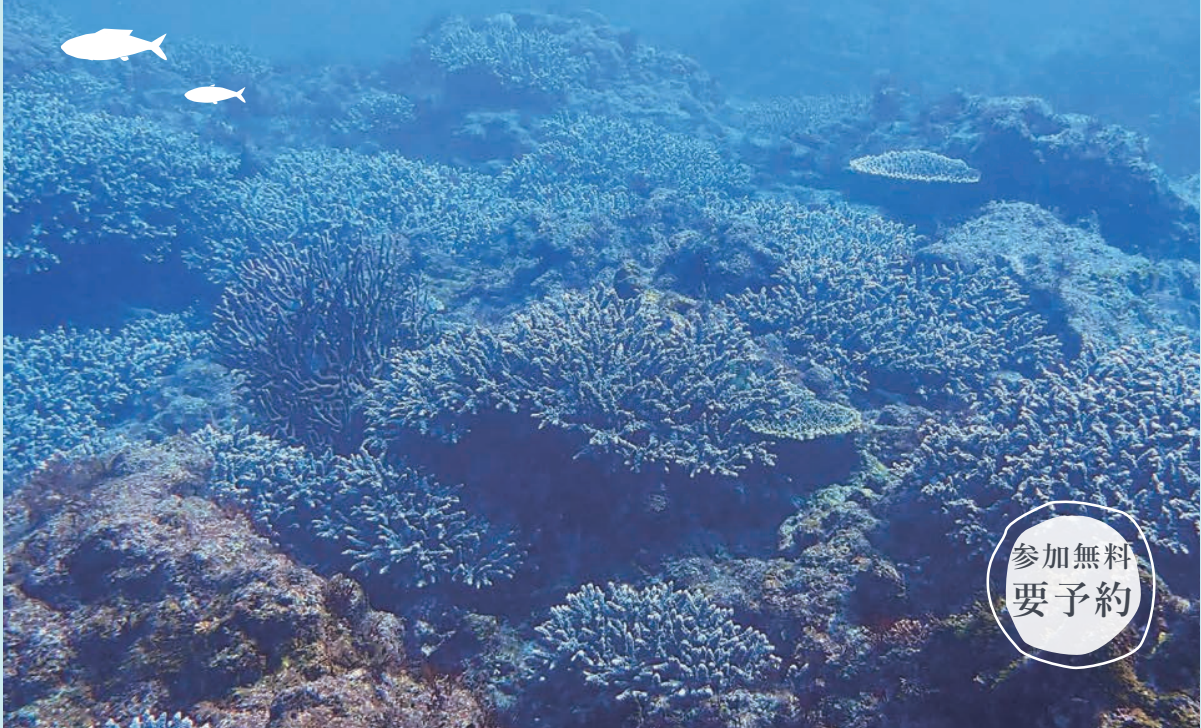
YNU Presents



海まちラボ
Umimachi Lab.

海トーク
Umi Talk

海について
話し、楽しむ。
大人も学べる
真鶴の夜。



参加無料
要予約



海の温暖化と生態系の変化 ～真鶴の海のいまとこれから～

琉球大学 理学部 教授
栗原 晴子 KURIHARA Haruko

横浜国立大学 大学院環境情報研究院 助教
高山 佳樹 TAKAYAMA Yoshiki

▶ 日時 3月1日(土) 16:30～18:30

▶ 場所 真鶴ピザ食堂KENNY

▶ 対象:真鶴町近隣にお住まいの方、中学生以上
(小学生以下も保護者同伴で参加いただけます。)

▶ 定員:30名程度

▶ 要予約、参加費無料(但し、1ドリンク制)

[主催]横浜国立大学臨海環境センター [共催]横浜国立大学地域連携推進機構

[後援]真鶴町、神奈川県西地域県政総合センター、株式会社 横浜銀行

[協力]真鶴町漁業協同組合、岩漁業協同組合、だいびんぐしょっぷ海家、岩ダイビングセンター、特定非営利活動法人ディスカバーブルー

▶ 海まちらボとは



真鶴の海の豊かさや魅力をさまざまな形で実感し、環境や持続可能利用について考えていただく機会として、ご参加いただくプログラムです。「海トーク」はその一環として、座学スタイルの講座を行い、毎回講師をお迎えして地域の海の魅力をお話しいたします。

▶ テーマと講師紹介

2025年3月1日(土)

2/1(金) 予約開始

海の温暖化と生態系の変化

～真鶴の海のいまとこれから～

講師

琉球大学 理学部 教授

栗原 晴子 氏

KURIHARA Haruko

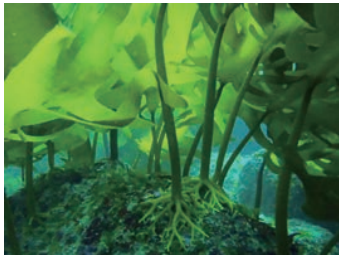
横浜国立大学大学院 助教

高山 佳樹 氏

TKAYAMA Yoshiki

真鶴の海では、カジメをはじめとした海藻が消失する『磯焼け』が起こり、南から来た色鮮やかな魚たちが年中泳いでいます。定置網に入る魚の種類も変わってきました。海の温暖化による影響は着実に私たちのすぐ目の前に海にも迫ってきています。そしていま、真鶴半島にはサンゴの群集が見られるようになり、「北限のサンゴ群集」として、研究者たちの注目を集めています。これまで海藻の生い茂っていた海にサンゴが増えていくとどうなるのでしょうか？海の生態系、漁業、そしてわたしたちの暮らしにも影響があるのでしょうか。

サンゴの専門家を迎え、いま真鶴の海がどのように変わってきていて、この後、どのように変わっていくのか。地球温暖化が招く未来に備え、持続可能な海との関わり合いをみなさんと考えてみませんか。



真鶴の海で以前見られたカジメ(左)。現在はもう見られない。真鶴半島周辺に広がるサンゴ群集(中央)とサンゴにすみつくソメワケヤッコの幼魚。

▶ ご参加される方へ

- ・ご参加にはご予約が必要です。お申し込み方法に従い、ご予約をお願いします。
- ・本イベントは参加費はいただきませんが、会場受付時に1ドリンクの注文をお願いします。
- ・会場の真鶴ピザ食堂KENNYでのお食事は、イベント開始16:30までをお願いします。イベント中および終了後は、お料理の提供はできません。

▶ お申し込み方法

ディスカバブルーのホームページ内「海トーク」のページにアクセス、またはQRコードでアクセスしていただき、申し込みフォームからお申し込みください。



▶ディスカバブルーHP内「海トーク」申し込みフォーム
https://www.discoverblue.org/umimachilab_umitalk/

▶ お問い合わせ

特定非営利活動法人 ディスカバブルー **Discover Blue®**

✉ info@discoverblue.org

▶ アクセス

真鶴ピザ食堂KENNY

神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴402-1

